

「福島浜通り地域の国際教育研究拠点に関する有識者会議」
検討の方向(案)
へのコメント

2019年10月30日 委員・山崎直子

これまでの会議の議論をまとめたものであり、本検討の方向性に賛同しております。

長期的に、福島浜通り地域に産業を根差し、次世代を担う人口の定着を図るため、国がイニシアティブを取り、国際教育拠点を復興の拠点とすることが大切と考えます。本検討の方向(案)でも記載されていますが、改めて強調させていただきたい点を以下に記します。

- 福島浜通り地域への交通整備と一体化で進めることが大切と考えます。道路、鉄道、空路のどれに重点を置いて、どのような時間軸で整備をしていくのか、まずは検討が必要と考えます。中長期的には、例えば、自動運転やドローン輸送の実証特区にする、福島ロボットテストフィールドの滑走路の有効活用をする、なども検討対象になるかと思われます。
- 国際教育拠点ということで、海外からの研究者及びその家族へのサポートが欠かせません。また、国内から移動してくる研究者及びその家族へのサポートも同様。生活環境の整備も一体化で進める必要が出てきます。
- 国のイニシアティブが必要不可欠ではありますが、地域のボトムアップの意見を吸い上げることも同様に大切と考えます。アーカイブセンターなど地域の核となる場の活用が期待されます。そして、初等教育から高等教育、そして就労につながる一連の流れをつくるのが大切と考えます。
- 特に海外への発信を強化することで、風評被害をなくしていく活動が求められます。そのためにも、研究の学際性が求められると思われます。
- 国内外への認知度を高めるために、World Robot Summit のような国際競技イベントを定期的にも実施することも一案と思われます。ロボットは、廃炉、エネルギー、農林水産業、インフラ保守点検、MaaS、宇宙や海洋探査など活用分野が広く、その国際研究拠点を目指すことは有意義と考えます。